

令和3年度宮津市総合教育会議会議録

- 1 日 時 令和4年1月21日（金）午後2時00分～
- 2 場 所 宮津市福祉・教育総合プラザ（応接会議室）
- 3 出席委員 宮津市長 城崎雅文
宮津市教育委員会教育長 山本雅弘
宮津市教育員会教育長職務代理者 伊藤 正
宮津市教育委員会教育委員 田崎浩二
宮津市教育委員会教育委員 尾崎里花子
宮津市教育委員会教育委員 藤井陽子
- 4 事務局 大井教育次長 永濱学校教育課長 吉田社会教育課長
東文化財保護担当課長 大槻総括指導主事 梅林学校教育課参事
森本学校教育課参事 公庄学校教育課学校教育係長
浅野企画財政部長 早川企画課長 中嶋企画課定住・地域振興係主査
- 5 開 会
- 6 議 題 ■宮津市の教育の充実について
- 7 そ の 他
- 8 閉 会

（開会 午後2時00分）

大井教育次長

定刻になりましたので、ただいまから、令和3年度宮津市総合教育会議を開会します。

開会にあたり、城崎雅文宮津市長が御挨拶申し上げます。

城崎市長

皆さんこんにちは。市長の城崎です。本日は、御多用の中を御参集いただきまして誠にありがとうございます。教育委員会の皆さんには、山本教育長を先頭に、宮津市の教育行政の推進に日々御尽力いただいております。敬意を表しますとともに重ねて感謝を申し上げます。

総合教育会議の開会にあたり、一言御挨拶を申し上げます。

この総合教育会議は、市長である私と教育長、教育委員の皆さんとが一緒になって、宮津市の教育の基本理念である「豊かな学びを深めてふるさとを愛する人づくり」を進めていく上で大変重要な会議であります。

昨年度は、宮津市の地域づくりの最上位に位置づけられる計画である『第7次宮津市総合計画』の策定を進める中、パラレルで『宮津市教育大綱・教育振興基本計画』策定に向けて、皆さんと意見交換をさせていただきました。

『第7次宮津市総合計画』の策定にあたっては、10年後に目指す将来像の実現に向けた5つのテーマ別戦略のひとつとして「ふるさとを大切に学びを深めるまちづくり」を掲げました。

とりわけ教育行政は、「地域社会にとって未来への希望、未来への投資」であると、「まちづくりは人づくり」であると思っております。

ます。明日の宮津を担い、創る人づくりに向けて、宮津ならではの新しい教育の創造を進め、ふるさと宮津に誇りと愛着を持って活躍するまちづくりを進めていかなければならないと考えております。

あわせて、新型コロナウイルス感染症の流行が長期化するなかで、子ども達が様々な体験の機会を奪われ、我慢を強いることに心を痛めています。アフターコロナに向けて、若い世代が力強く生きる環境を整えることが我々の使命だと考えております。

本日の議論を踏まえ、「将来にわたって宮津を支える人財の育成」に御尽力を賜りますようお願いを申し上げ、開会にあたっての御挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

大井教育次長

市長ありがとうございます。

それでは議事に入らせていただきます。議事の進行については、市長にお願いします。

城崎市長

それでは議事に入ります。本日は、宮津市の教育の充実について、「豊かな学びの創造に向けて」と「豊かな心と体を育むスポーツの推進に向けて」の2つのテーマについて意見交換を進めていきたいと考えています。

まず、意見交換に入る前に、これまでの教育活動に係る共通認識を図っておきたいと思っております。令和2年度の実施事業に係る点検評価委員からの意見書の内容を確認しておきたいと思っておりますので、事務局から説明願います。

永濱学校教育課長

■宮津市教育委員会の所管する事務事業の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書（令和2年度実施事業）から、現在の計画の基本方針1から3それぞれに定められた目標値の進捗状況を一覧にしたものとそれぞれの分野の総括書を資料としてございます。ここでは、点検評価委員であります京都教育大学の竺沙教授から令和2年度に関する意見をいただいておりますので、意見書からポイントを絞って御説明申し上げます。

◆宮津市教育大綱、宮津市教育振興計画が策定され、「教育のまちみやづ」を基本理念として総合的に教育振興に取り組んでいることに評価いただいております。また、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のために、異例の対応が求められる状況でしたが、感染症防止対策に万全を期して各種行事への参加や学校関係者との意見交換を行うなど、コロナ禍における学校の状況を踏まえた教育委員会の活動が取り組まれていた点を評価いただいております。

◆基本方針1「明日の宮津を創る子どもの育成」について

小中一貫教育につきましては、「ふるさとみやづ学」を核としたカリキュラム構想が適切に編成され、子どもの探究的学習を促進する教育が展開されており、体制整備の段階から、教育の質・成果を高める研究、検証の段階に発展していると評価いただくとともに、ICTを活用するGIGAスクール構想の実現について

は、コロナ禍の中ではありましたが、活発な取組がなされ、実績を積み重ねている点を高く評価いただいております。

今後は、子どもの学びに向き合った研究を更に進めて、G I G Aスクールとは、どのような学校として発展させていくのか検討していくことを求められております。

◆基本方針2「生涯にわたる充実した豊かな学び」について

令和2年度は、コロナ禍の影響を大きく受けて、事業の中止や縮小を余儀なくされました。感染防止対策は重要であるが、それとともに事業のあり方を見直し、中長期的に「生涯にわたる充実した豊かな学び」のあり方、地域社会のあり方を考えるよう期待をいただいております。

◆基本方針3「誇りと愛着のある地域文化の保存・活用」について

天橋立の調査研究を進め、新たな価値の発見、再評価がなされたという点を評価いただくとともに、コロナ禍により芸術文化活動も停滞せざるを得ない状況だからこそ、芸術文化の意義について考え、新しい営みが生まれることに期待をいただいております。

◆今後の課題について

令和3年度からの宮津市教育大綱、教育振興基本計画の策定にあたって、活発に協議され、市全体でこれからの宮津市の教育やまちづくりに取り組む体制が整えられたこと、また、「協働、挑戦、創造そして未来へ」「宮津市の新しい教育の創造」というビジョンが具体的でわかりやすく、力強いメッセージが発信された点について評価をいただいておりますが、ホームページでの情報発信については改善の指摘をいただいております。以上、簡単ではございますが令和2年度の事務事業の点検評価から、説明とさせていただきます。

城崎市長

それでは、テーマの1つ目「豊かな学びの創造に向けて」に入りたいと思います。事務局から、このテーマに係る現在の取り組み状況の説明を簡潔にお願いします。

永濱学校教育課長

◆それでは、まず、G I G Aスクール構想の推進について、プロモーション動画を作成しておりますのでご覧ください。

<G I G Aプロモーション動画（1分5秒）>

◆（資料1）宮津市G I G Aスクール構想について保護者に取組状況をお知らせするお便りを毎月発行しています。No.1～No.3はタブレット端末の機能や使い方を紹介しています。No.4からは各学校における具体的な取組の様子を紹介するほか、No.8では4小学校のリモート交流会の様子やコロナ対策に向けたオンライン授業の試み等を掲載しています。最新号のNo.12では、児童生徒がアプリを使って動画作成や作曲を行うなど、4月当初と比べると、どの学校もタブレット端末の活用が進み、授業自体が変わってきている様子を掲載しています。

早川企画課長

◆（資料1-1）次に、市ホームページでのふるさとみやづ学の発信について御説明申し上げます。お手元に、第7次宮津市総合計画の概要版をお配りしておりますが、その1ページに「橋をつな

ごう」ということで、総合計画の全体像を記載しております。2022年は天橋立名勝100年・特別名勝70年の記念年でもあり、「共に創る みんなが活躍する豊かなまちみやづ」の実現に向けて、情報発信に力を入れていくこととしています。

昨年度にリニューアルした市ホームページも大変好評をいただいております、多くのビューを獲得しておりますが、このホームページの中に「ふるさとみやづ学」のコーナーを設けて、小中一貫教育や高校連携など、学校・家庭・地域の取組を掲載していきたいと考えております。具体的には、次のページにイメージを載せておりますが、「愛…ふるさと宮津」というコンテンツを新たに作りまして、各学校にも協力をいただき、学校における子ども達の学びの様子や、中学生のふるさと提言、高校生のふるさとみやづ学立志編などの情報を発信していく予定としております。

城崎市長

ただいま説明がありましたが、小中一貫教育を推進することにより、切れ目なく、いかに質の高い学力の充実・向上につなげていくか、そして、いかに地域と一体となって、明日の宮津を担う人づくりを進めていくかということが大切なのではないかと思います。

また、GIGAスクール構想の具体化で、子どもの学び方、先生の指導の仕方を問い直す必要があると言われるなかで、子どもの学びがどのように深まったのか、学びの質が高まったといえるのか、さらに非認知能力など数値で表すことのできない力をどのように評価し、より高めていけるのかを示していく段階に入ってきているように思います。皆さんの御意見を賜りたいと思います。

伊藤教育長職務代理者

GIGAスクール構想のもと、今年度から文房具の一つとしてタブレットを使い始めています。本当に進んだ教育、まさに新しい教育に入ったと思います。1年生から端末を使って毎日の様子を画像も交えて分かりやすく伝えることができています。一方で、こうした機器を使うことによってどんな能力が身につくのか、今後検証しながら次に進めていくことも重要だと思います。時代の流れに乗るといえるのか、子どもは修得が早いと感心しています。

田崎教育委員

コロナ前と比べて、見直しや変化が当たり前だと感じます。我が家の中学3年生の子どもも日々タブレットを使い、これまでの学習とは違う学びをしています。変化せざるを得ない時代だと思います。

ふるさとみやづ学の関係になりますが、以前にラジオ番組で「津」という漢字は「人が多く集まる」という意味だと言っていました。なるほど、宮津はそういう地名だったのかと思いました。今は人口減少が大きな課題となっています。前の会議でも意見が出ていましたが、宮津には大学がないため、進学で出て行った子どもが戻らないという現実があります。宮津の良さが分かるのは数年後、最終的に宮津に戻って欲しい、そのためには今の取組が大切だと感じます。

建物などのモノは残っていきませんが、文化（食・芸能）は人が人に伝えていかなくては無くなってしまいます。コロナ禍で祭が中止されるのも、失うものの一つだと思います。上宮津地区で今

福の蛇網が復活して、取組が続いていると聞きます。人が文化を守り創ること、人づくりがまちづくりなのだ実感しています。

山本教育長

G I G A スクールの取組については、I C T を活用してどんな授業にしていくのか、ということが重要です。昨年度に多くの予算をかけて児童生徒のタブレット端末や学校のネットワーク環境の整備をしていただきました。学校は、これまでは子ども達に指導をする場所でしたが、これからは自ら学ぶ力をつけさせる場所にならなくてはなりません。社会に出て、自ら社会を変えていくとすると人を育てるために、どういう授業や学び方をしていくのかを考えないといけません。今は、誰が生徒か先生か分からない雰囲気で行錯誤しながら進めています。子どもを導いていくことも大事ですが、背中から支えていくことも大切だと思います。子ども達が自ら学ぶということが大切です。伊藤委員が言われたように、この学びをどのように発展させていくのか、今までの教育の良いところを残しつつ I C T 機器も活用して更に発展させていく、正解だけではない学びを創っていかなくてはならないと思います。

尾崎委員

スピード社会のなかで、子ども達の環境がどんどん変わっていくなかで、心の成長を大切にしないといけないと思っています。今は、以前と比べると、地域の方が教育や子どもにしっかりと関わっていただいていると感じます。私たちが支える側に回れる環境を作っていただいていることがありがたいと感じています。

市ホームページで、宮津で活躍する人を紹介していただいているのが大変良いと思います。すごい人達がたくさんおられるので、もっと活用したらよいと思います。私自身もよりよい環境づくりに貢献できる 1 人でありたいと思っています。コミュニティ・スクールの取組で栗田小学校の読み聞かせの紹介がありましたが、地域の方に読んでいただいたことが子ども達の思い出に残る、良い取組だと思いました。

城崎市長

宮津市の人口ピラミッドは逆三角形になっています。これは悪く言えば少子高齢化ですが、逆に考えると、少ない子どもに大勢の大人に関わることができるということです。みんなで、地域で子どもを育むマインドを作っていくと未来が開けるのではないかと考えています。

山本教育長

これまでの学校教育は学校だけで完結しようとしていたが、これからは学校以外での豊かな体験を通して学んでいく時代です。それを支えていくのが学校運営協議会制度の役割だと考えています。地域の力を借りながら教育を豊かにしていきたいと思っています。

伊藤教育長職務代理

栗田学院のコミスク便りにありますように、「できる人が・できる時に・できる事を」がキーワードだと思います。子どもを支える人がいかに意識して関わっていくか、学校に奉仕するだけでなく、地域にも取組の成果が跳ね返ってくるような仕組みを学校運営協議会で考えていくことが重要だと思います。多くの人に関わることで子どもの力になることをもっと発信していけたらと思います。

山本教育長

栗田学院で陸上競技の指導補助をしていただいた地域の方の感想を聞いていますと、地域の潜在エネルギーの掘り起こしに繋がっていると感じます。

伊藤教育長職務代理

いきいきと指導される姿が目につかぶようです。

藤井委員

地域の子どもの役に立ちたいと思う方は多いと思いますが、関わるきっかけが無いのではないかと思います。宮津学院も栗田学院も上手く情報発信をされていますが、自分からホームページを見にいかないと情報が得られません。昨年度から宮津市でもLINEで色々な情報を発信していただいております、興味のあるイベントに行かせていただいたり大変役に立っています。発信することで地域を巻き込んだ動きが出来るのではないかと思います。オンラインで4小学校の交流をされたり、旭山動物園や宇宙ステーションと繋がったり、ICTの活用によって可能性がどんどん広がっていると感じます。

栗田学院では、小さいときから中学校卒業のイメージを持って教育できるという先生の話が印象に残っています。先日、旧三上家住宅で行われた府立大学生のシンポジウムに参加しましたが、子どもの憧れる大学生が身近にいる環境を作っていただきたいと思いました。

山本教育長

都市部では大学生がボランティアで児童生徒に関わる機会がありますが、当地では難しく、代わりに高校生がその役割をしてくれていると思います。海洋高校生のリモートでの給食授業など、将来、ああいうお兄さんお姉さんになりたいなという非認知能力の育成にも関わってくると思います。リモートで世界中と繋がることで豊かな学びにつながると思います。

城崎市長

「豊かな学びの創造に向けて」をテーマに皆さんからご意見をいただきました。これからの時代に求められる学校は「教育する社会」から「学習する社会」へと変化し、すべての子どもの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現し、子どもの資質・能力を一層確実に育成していくことが求められています。情報発信を強化し、目指す姿を保護者や地域と共有して、社会全体が子どもの成長に関わっていくことがまちづくりにつながるものと考えます。

「GIGAスクール構想」と「地域」や「大学」の関わりは親和性が高いと感じています。これらの取組が上手く回り出しているのではないかと思います。宮津の教育の目指す方向性は間違っていないので、令和4年度に向けて、評価しつつ進めていきたいと思っています。子ども達の学ぶ力をつけることを最終的な到達点として、ポイントとしては、目標を明確に示すこと、大学生などこういう人になりたいという将来像を持たせること、他の子どもを見て自分もこうしていこうというお互いの協働の学びを進めること、等があげられると思います。教育委員の皆さんにおかれましては、今後とも、宮津の新たな学びの創造に向けてご尽力をお願いしたいと思います。

次に、「豊かな心と体を育むスポーツの推進に向けて」をテーマ

に意見交換を行いたいと思います。事務局から、このテーマに係る現在の進捗状況の説明を簡潔にお願いします。

早川企画課長

◆（資料2）豊かな心と体を育むスポーツの推進についてご説明申し上げます。平成30年度から令和4年度を計画期間とする第2期宮津市スポーツ推進計画において、「スポーツを通じた人とまちの元気づくり」を基本理念にスポーツの振興に取り組んでおります。第7次宮津市総合計画に掲げる「豊かな心と体が育まれる文化芸術・スポーツのまち」を着実に推進するため、地域づくりの観点から他の地域振興施策と合わせた一体的な展開が図られるよう、令和3年度から「文化・スポーツ振興」を教育委員会事務局から市長部局に移管し、新たな体制のもとで施策を推進しております。

そうした中で、令和4年度は第3期宮津市スポーツ推進計画（R5～R9）の策定年度として、これまでの市民スポーツDAYや市民体育館トレーニングルームの充実などに加えて、「スポーツ×観光のまちづくり」に向けて、田井宮津ヨットハーバーを活用した賑わいづくり等に取り組むこととしております。

また、学校の部活動について、教員の働き方改革を踏まえた部活動改革が国から示されており、部活動への地域人材の活用や他校との合同練習などを考えていく必要があります。こうした点も踏まえて、次期スポーツ振興計画の方向性について御意見を頂戴したいと思います。よろしくお願い申し上げます。

城崎市長

ただいま説明がありましたが、スポーツ活動の充実やスポーツを通じた元気づくりなどにより、いかに生涯にわたる豊かな学びにつなげていくか、いかにふるさと宮津への誇りと愛着を醸成していくかということが重要であると考えてございます。そして、これらの動きをまとめた上で今後の方向性を示していかなければならないと考えますが、皆さんの御意見を賜りたいと思います。

尾崎委員

SONPOボールゲームフェスタに補助員として参加させていただきます。子ども達にとって、自分がまだ何者かも分からない時から本物のスポーツ選手に教えていただいたり、色々な体験をすることが大切だと思います。子どもの可能性を伸ばしてあげたいと思います。

大人もスポーツする機会を求めていると思います。市民体育館のジムは、一般の方にはハードルが高く、特別な方しか使えないような印象があります。誰が行っても気軽に使えるようになると良いと思います。例えば、市民向けにマシンの使い方を教えるような開放日があれば、みんな健康的に筋肉を付けたいというニーズを持っていますので、もっとジムを活用するようになると思います。公民館活動においても、先日、上宮津公民館の活動が表彰されましたが、日置や吉津でも色々取り組まれていますので、ジムのマシンを公民館に巡回で置くとか、地域の方にもっと活用していただければ良いと思います。

山本教育長

裾野を広げるのは大切なことです。トップアスリートは多くの競技者がいて、競技の厚い層があってこそ生まれると思います。子ども達は、色々なスポーツを遊び感覚で体験することで、自分

の適正が見つかるかもしれませんし、小さい頃から2つ3つのスポーツを体験する環境づくりが必要だとスポーツ庁も提起しています。公民館なども活用して、スポーツを身近に、気軽に体験できるようにしていく必要があります。お金をかけなくてもできる事はたくさんありますので、知恵を出して、スポーツに親しむ機会を作っていきたいと思います。特に、ジュニアスポーツは大切だと考えています。学校では生徒数の減少によりチーム競技が成立しない状況になっていますが、社会人クラブなどを充実して、やりたいスポーツが出来る環境を整えたいと思います。

伊藤教育長職務代理

私もスポーツの裾野を広げることが大切だと思います。スポーツをしている人は自分で体を鍛えますが、しない人は運動する機会がありません。生涯スポーツの観点として、スポーツ推進員の働きが大きいと思います。地域の方の声かけがあれば、たくさんの方が集まってくれますので、公民館や自治会との連携が大切だと思います。いかにきっかけづくりをするかが大切です。スポーツをしてみたい人はたくさんいると思いますが、二の足を踏んで参加できない方がおられますので、そういう方への促しをどうするかが課題だと思います。私も、体育館のジムには行ってみたいと思うのですが、やはり行きにくい感じがあります。尾崎委員が仰ったように開放日があれば、ちょっと行ってみようかなと思います。

城崎市長

市民体育館のトレーニングルームの使用実態は、どんな状況ですか。

早川企画課長

委員ご指摘のとおり、しっかりとトレーニングをしたい方の利用が多い状況です。宮津市スポーツ振興計画におきましても、基本目標に「ライフステージに応じたスポーツの推進」を定めておりますので、トレーニングルームについても、空き時間を使って利用できるような工夫や、公民館との連携などを図っていききたいと思います。

城崎市長

自分だけのトレーニングマシーンという意識の方がいるのではないのでしょうか。

尾崎委員

確かに他の人がマシンを使いにくい時があると思います。

早川企画課長

会員登録をして利用されているので、元を取りたいという方もあるのではないかと思います。利用に向けて敷居を下げる動きをしていきたいと思います。

伊藤教育長職務代理

市民のニーズを調べていただいて、利用希望が多いのであれば機器の充実もお願いしたいと思います。

山本教育長

公民館でトレーニング体験をしていただくなど、まずはハードルを下げて段階を踏んで取り組んでいくことも必要だと思います。少しずつ試してみてもはどうでしょうか。

藤井委員

大人も本物に触れる機会があると良いと思います。先日、高校生に、休みの日は何をしているのかと尋ねると、福知山に行く、

と言っていました。スケートボードやクライミングなど、楽しいスポーツが出来る場所があると良いと思いました。私もEバイクに乗ってみたいのですが、料金がなくて観光向けなのだと諦めています。気軽に体験できるシステムがあれば良いと思います。歩くアプリで市民向けにポイントを付与する自治体もありますので、気軽に参加できる仕組みがあれば良いと思います。また、地域のクラブチームなどが紹介されているホームページがあれば分かりやすく参加もしやすくなるのではないのでしょうか。

田井ヨットハーバーの賑わいづくりについて、株式会社にしがきが運営されるということですが、観光客向けの内容になるのでしょうか。もっと市民が参加できる体験メニューも増やしていただきたいと思います。

城崎市長

ヨットについては、宮津市ヨット協会を中心に幅広い取組をしていただいております。株式会社にしがきにも、特にジュニアを中心にスポーツ全般の振興につなげていただきたいと思います。お願いします。

地域のクラブチームの周知については、スポーツ協会のホームページを充実させる必要があるかと思えます。そういった団体のポータルサイトとして活用されると良いのではないかと思います。スポーツクラブレインボーもハードルを下げて市民向けの講座をやっていますので、コラボしながら進めていきたいと思えます。

尾崎委員

スポーツ協会に所属していないスポーツクラブもあります。吉津公民館でキックボクシングの教室をやっています。私も参加しているのですが、会員は40人、就学前の児童から76歳の最高齢まで毎週活動をしています。最初はふらふらしていた小学生の児童もきちんと座って挨拶ができるようになります。武道の力というかスポーツの人を育てる力を感じます。こういった協会に所属していない団体も活動を発信できる場があると良いと思えます。

田崎委員

スポーツは、体の健康、心の楽しみ、合宿などで人が集まることで観光にもつながります。一方で、気になっているのですが、少年野球で指導者が子どもを怒鳴り散らしていることがあります。これは正しい指導ではない、古い方法だと思います。人間的成長なくして技術の成長なし、という言葉がありますが、スポーツを通して人を育てる、人間的な成長を伴う指導にしていきたいと思えます。

山本教育長

東京オリンピックを見ていまして、新しい競技の選手は楽しんでプレーしています。スポーツを楽しめるということが大切だと思います。

生徒数が減っている中で学校の部活動は地域のスポーツ団体に移行していく必要がありますが、都会と比べて当地では実施が難しいと考えています。スポーツ団体の担い手にボランティアとしてやっていただいている方々に更にお願いをするのは難しいと思えます。そういった部分を協会がどうサポートしていくのが重要です。そのためにも市町単位の協会ではなく、広域化して大きくすることで競技団体へのサポートを、金銭支援以外のやり

方で行うことを考えていかないといけないと思います。YouTubeなどでの発信も一つの方法で協会のアピールになると思います。当地で大きな大会を開催できるのは協会の努力が大きいと思いますし、シニア・ジュニアのスポーツ振興と合わせて学校体育や部活動も考えていかないといけません。次期のスポーツ振興計画は、そういう視点も持って作成する必要があると思います。

城崎市長

子ども達に色々な可能性を与えてあげられるように、人口が減少しても団体競技ができるような環境を整えていきたいと思えます。当地には、ヨットやウエイトリフティング、レスリングなど得意とする競技があります。こうした得意分野に優先的に取り組んでいくやり方もあると考えています。宮津市だけで全てを完結するのではなく、近隣市町とも連携しながら、それぞれの得意分野を活かしていく方法もあります。子ども達のチャンスをたくさん作っていくという視点を計画にも入れていきたいと思えます。

山本教育長

明日予定しております教育フォーラムでは、市民や保護者の皆さんに宮津の教育を知っていただく場として理解を深めていただきたいと考えています。

小中一貫教育によって教育の「縦軸」を、学校運営協議会制度によって地域と学校の「横軸」を、キャリア教育やふるさとみやぶ学の実践によって「時間軸」をつくり、この3つの軸を組み合わせ、子ども達の力を育てていきたいと思えます。新しい教育の創造に向けて、色々なご意見や知恵をいただきたいと思えます。

城崎市長

本日は、大きく2つのテーマに基づき、皆さんと意見交換を行ってきました。

コロナ禍として2年が過ぎ、この間、子ども達には色々な制約を強いてきたのではないかと思います。学力自体には影響が出ていないかもしれませんが、心の影響という部分で何か変化があったのではないかと感じています。子ども達がワクワクするような学校づくり、体験をさせてあげたいと思えます。

令和4年度は、ワクワクする取組を学校と一緒にやっていきたいと考えていますので、是非、御提案もいただきながら、教育委員の皆さんと一緒に進めていきたいと思えます。

今後も、市長である私と教育長、教育委員の皆さんとが一緒になって、「豊かな学びを深めてふるさとを愛する人づくり」を進めていけるよう、この総合教育会議で議論を深めていければと考えております。明日の宮津を担い、創る人づくりに向けて、宮津ならではの新しい教育を進めることで、ふるさと宮津に誇りと愛着を持って活躍するまちづくりをしっかりと進めていきたいと思います。

以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了します。長時間にわたり、ありがとうございました。お疲れ様でした。

(閉会 午後3時50分)